西東京市市民協働推進センター
平成２２（2010）年度第２回　運営委員会会議録（確定稿）

■開催日時：平成２２年５月１８日（火）　午後７時～９時
■開催会場：イングビル３階第２会議室
■出席委員：有馬委員、岡澤委員、熊田委員、小林委員、坂口委員、中曽根委員、橋本委員、原委員、宮崎委員、山辺委員、吉田委員
<以上１１名、五十音順>
■事 務 局：西口センター長、丸木地域福祉課長、中澤主事、佐藤

○運営委員の委嘱（新委員の岡澤氏に委嘱状を手渡す）

○岡澤委員の自己紹介

○事務局から報告とおわび
事務局：今回運営委員会開催のお知らせをメールにて送付した際、各委員の了承なしにアドレスを公開してしまった。おわびする。
委員長：メールアドレスの取り扱いの件は、「その他」の議題で議論する。

１．報　告　事　項

１．西東京市市民協働推進センターの業務報告について
○４月期の月次報告について事務局が説明。
事務局：新規登録は３団体。平成２１年度の３１団体は全て更新した。４月の相談件数は１１件だった。
委　員：「センターへの事業提案に関する相談」はどんな内容か。
事務局：個別資料を持ち合わせていない。次回まとめて報告したい。
委　員：事業提案など参考になりそうな相談内容は知りたい。昨年の４月、５月は２５件。今年は少ないようだが。
事務局：昨年はスタート年度ということもあり、当初は相談件数としてカウントする基準を低めに設定した。
委員長：今年度は相談として申し出があったものをカウントするのか。
事務局：内容で相談と判断されるものをカウントする。
委員長：次回からセンターへの提案に関する相談で、報告した方がよい内容があれば説明をお願いしたい。

２．５月以降の西東京市市民協働推進センターの事業について
○トークサロン、専門相談会などについて事務局が説明。
委員長：全般を通して気になる点や意見はあるか。
委　員：「ＮＰＯ・市民活動ネットワーク」への質問であるが、昨年の開催は２回か。
事務局：３回の開催に加え、大名刺交換会を実施した。
委　員：自発的、主体的とあるが、コアメンバーが企画してやっていくのか、事務局がお膳立てをするのか。
事務局：３回目の時点では、例えば各団体が作っているチラシを持ち寄り、相互に赤入れチェックをするなどメンバーが主体的に動こうとする傾向がみられたが、その後の進展はみられない。
委　員：自分たちで日程や場所を決めて実施するところまで達していないのか。
事務局：まだそのような段階にはない。
事務局：ＮＰＯ・市民活動ネットワークが主体的に動くのは理想形である。それまでの過程は、センターが触媒にならざるを得ない。分野別にネットワークが徐々に形成されればよいと考える。
委　員：今日説明された事業が年間計画の全てか。
事務局：当面取り組む事業だ。年間計画全体ではない。
委　員：第２回トークサロンの説明で講師とあるが、ゲストとの違いは何か。
事務局：ご指摘の通りゲストという表現がふさわしいと考える。
委　員：昨年は前センター長がコーディネート役をこなしていた。今年も同じか。
事務局：昨年同様に雰囲気を作るよう努力したい。

委　員：今回の市民シンポジウムはテーマを設定したことで、活動領域の近い団体の参加になりそうだ。しかし、違った活動領域の団体が出会うときに協働の土壌が培われることもある。一方でテーマを設定することでアピール力が上がる。市民シンポジウムの役割をどこに置くかだ。
事務局：活動分野の異なる団体が協働することで、新しい何かが生れると思う。別の機会にその企画を反映する方向で取り組みたい。
委員長：論点は二つ。一つはテーマを環境やまちづくりに絞るかどうか、二つ目はシンポジウムのパネリストをまちづくりや環境系の団体に絞るかどうかだ。前回は初めての企画であったため、柔軟に対応した。
委員長：前回の市民シンポジウムに参加した委員はどう感じたか。
委　員：前回、議論は拡散する傾向にあった。テーマを絞った方がよい気がする。
委員長：他の委員の意見はどうか。
委　員：違った活動領域の団体が集うことで、一つのことがきっかけで思いがけない出会いや発見がある。環境活動団体は子どもの活動団体が環境に取り組んでいるのを知らない。テーマを広げた方が、面白い出会いが生まれる。
委員長：環境を看板にしていないが、地道に環境に取り組んでいる団体もある。
委　員：テーマを絞ってもよいが、パネリストは幅を持たせたほうがよい。環境を看板にしていないが、環境問題と取り組んでいる団体などがある。異なる視点からの出会いは大事であろう。
委　員：市民シンポジウムは地域のＮＰＯや市民活動団体が不特定多数の人たちへ露出の場を提供する機会となる。この地域に特化した身近な社会的課題をみんなで考える。地域の課題を市民に知らしめるテーマ設定にしてはどうか。ミクロな例では「どうする石神井川」などが考えられる。地域課題密着型、市民参加型で活動団体の露出の場とする。テーマはそのままでよいが、要は課題に何を見つけるかだ。
委員長：企画案はいつまでにまとめあげる必要があるか。
事務局：市報原稿を７月下旬に提出する。次回の運営委員会で検討しても間に合う。
委　員:基調講演の打診先は、地域の企業でしかも地域に根差した環境活動をしているので適当であると思う。
委員長：西東京の環境課題のどこに焦点を合わせるかだ。パネリストの活動団体の選定の中でどういったテーマだと話してもらえるか。テーマを検討願いたい。
事務局：パネリスト候補は市へ説明している。今回はテーマが大きいので、絞り込みが難しかった。
委　員：このテーマだったら話せますかというように、活動団体に打診をしてはどうか。環境に配慮したまちづくりのテーマは、コーディネーションが難しいのでは。
事務局：パネリスト候補は、活動団体の露出の場として公平性も考慮した案である。
パネリスト候補の１４団体のうち３団体にパネリストをお願いし、残り１１団体はパネル展示で説明をしてもらう。パネル展示は環境系に特化しない。地域の具体的なテーマがあるとそれに興味をもった異なる活動分野の団体も集まって新しいコラボが生まれるかもしれない。
委　員：石神井川にホタルを呼び戻す活動している人もいるが、含まれているか。
事務局：同じ人が別の組織で重複して入っているようだ。
委　員：もし「石神井川」がテーマであればその人は話をしたいだろう。出てもらいたい人には事務局から声をかけてもよいのではないか。
委員長：大きなテーマは「環境とまちづくり」でよいだろう。シンポジウムの話題をどう設定するかだ。
運営委員の中に環境系の人がいる。その方々の意見を聴取し、次回６月の運営委員会に諮る。
委　員：もう少し先々の事業予定も次回から提示してほしい。
委員長：事務局の方でもう少し早目に提案をお願いする。
委　員：２月の運営委員会で年間事業計画の概略説明はあった。
委員長：市民シンポジウムが８月にあるのは予想ができた。ただ具体的なテーマが環境に配慮したまちづくりであると聞いたのは今回が初めてだ。もう少し早くテーマの設定ができればよい。
委員長：５月以降のセンターの事業は早目に準備していくこととする。

２．審　議　事　項

１．2010 年度第１回運営委員会会議録について

○2010 年度第１回運営委員会会議録（未定稿）を確定稿とした。

３．協　議　事　項

１.行政職員と市民活動団体の懇談会について

事務局：７月と１２月に実施する予定。行政職員と市民活動団体が身構えることなく、問題意識や関心領域を共有するためにどうしたらよいか。またそのための仕掛けや工夫などについてご意見をいただきたい。将来的に協働につながる実効性のある懇談会にしたい。来年２月の協働を考えるシンポジウムにつなげたい。

委員長：昨年の１０月に市の主幹以下の職員に運営委員会に来ていただき意見交換をした。その後２月に協働を考えるシンポジウムを実施したのが今までの実績。今後この関係性をどう広げていくかがポイントである。市民活動の立場を全面に出しながら懇談会のあり方を考えていく。

事務局：市民活動団体と行政職員が顔の見える関係、話ができる関係を作っていく中で、協働の土壌ができると考える。若い世代の行政職員の中には協働に興味をもっている人はいる。

委　員：いくつかの選択肢がある。クローズド型かオープン型か。またテーマを設定するのか、総論的に開催するのか。総論なら協働の基本方針とか。手法としてはワークショップ型なども考えられる。事例をたたき台にしたミニシンポジウムのような対話型もあるが、事務局の考えはどうか。

事務局：テーマは設定した方がよいと考える。クローズかオープンかについてはオープンで開催したい。手法としてはワークショップをやってみたいが、最初からワークショップができるかは難しいと思う。

委員長:西東京の現状は市民活動団体と行政との関わりがまだ深化していない。委員はどう認識をしているか。

委　員：オープンにすべきと考える。より具体性のあるテーマ設定がよい。西東京には協働事例がたくさんある。協働事例を紹介して行政側と市民活動団体側が話し合う。それを聞いていただいた上で課題抽出をし、市民から意見をもらう。これはシンポジウムの方でもよい。

委員長：委員の皆さんは活動団体を背負っている。どういう形で懇談をしたいか意見を聞きたい。

委　員：環境団体が毎年続けているアースデイがある。いつも後援が問題になる。後援とは何なのか、文字だけなのか。アースデイ実行委員会が１団体として扱われテントが借りられない。今年は行政とどういうスタンスで付き合うかを考え直すために中止し、来年再開する予定である。困っている事例だ。

委員長：他に困っている事例とか行政と対話をしたい事例があるか。

委　員：質問だが、参加する行政職員とは協働コミュニティ課を想定しているのか。

事務局：協働コミュニティ課以外の部課も入ることを想定している。

委　員：お互いに問題点が分かってからスタートしないと色々なレベルでの不平、不満が出て議論が拡散するので、コーディネート役と司会の役割が大事になる。具体的なテーマでする必要がある。テーマが抽象的だと総論賛成、各論反対になる。

委　員：懇談会は継続的に実施して、話がだんだんと伝わるようにしていく。市の職員も市民活動団体をよく知らない。まずは実施することだ。

委員長：あくまで懇談なのでゆるやかな形で、まずはより良い関係作りから始める。長期的な視点から設計することが大事だ。

委　員：今協働は中だるみの状況だ。平成１４、１５年ごろは協働との関わり方を行政職員も一生懸命考えていた。後援、委託、実行委員会方式など関わり方もいろいろある。最近は協働イコール委託契約だ。協働を考える懇談会に行政職員が出てくれるかが心配である。行政職員が市民団体と出会い、協働を考えざるを得ない仕組みづくりが必要だ。

事務局：今の件だが、市としては研修に組み込みたい意向は持っているようだ。

委　員：実際に協働を取り込んでいる活動団体との懇談会はどうだろうか。

委　員：各活動団体との契約金額は分かるか。

委　員：契約書はオープンになっているので調べる気になれば分かる。

委員長：行政の立場もある。行政側が懇談会をどう持ちたいかを押さえておく必要がある。次回の委員会でたたき台の内容を詰めていく。

2. 大学生による事業企画と事業実施について

事務局：3 月に実施する市民フェスティバルをイメージしながら検討している。大学生に、より積極的に関わってもらう方法はあるか。アイデアや意見があれば伺いたい。

委員長：昨年度の市民フェスティバルは武蔵野大学の学生に「単発」ということで協力をお願いした。自主的な活動を続けているところもあり、ボランティア・市民活動センターとの関わりでは、学生が後輩に引き継ぎ５年くらい続けている。単発であれば呼ぶことはできるが、長い間事業に関わることは難し

いのが実態である。
委　員：今の学生は大変忙しい。授業の出席、勉強、資格取得、アルバイトなど。楽しく、自分が役に立つと実感でき、そこでできた人間関係が広がるなど色々な要素が加わるとボランティアは続く。また講演会やイベントは、リポートを書くとか、単位を与えるなど課題仕立てにしないと集まらない。その中で学生が主体性を発揮できるように工夫が必要だ。
委員長：他に意見はあるか。
委　員：学生が集う目的には、イベント参加や地域活動、市民活動の入門がある。同時にセンターに気軽に立ち寄れる雰囲気づくりが大事だ。学生が市民活動団体として登録してもよい。拠点としての大学を考えると市内外や近隣にいくつもある。そこにどのようなメディアを使ってアプローチするかだ。ネット上のコミュニティもある。学生はキャリア形成に興味を示すので、ＮＰＯ、ソーシャルビジネス、社会的起業などをキーワードに呼びかける。
委　員：ホームページにイベントの写真をたくさん載せている。高校生からメールで入会の申し込みが３件あった。
委　員：ＪＣＯＭのテレビを見ていたら東伏見に学生寮があり、学生がみこしを担いでいた。確かに、地元に学生寮がいくつかあるようだ。
委員長：他に意見はあるか。
委　員：東伏見の「街なかサロンにこにこ」で学生が住民との交流を目的にして週に数回喫茶店をオープンさせていたが、学生を集めるのに苦労していた。活動が認められる仕組みがいる。例えば、教授や教務課にお願いし授業の一環に組み入れるなどが考えられる。
委　員：大学のキャリアセンターではＮＰＯにインターンを派遣している。ＮＰＯの活動が就活に役に立つ。
委員長：単発と長期の取り組みは分けて考える必要がある。学生は長期の取り組みを嫌がる傾向にある。
委員長：この件は継続審議とする。

3. 情報ボックスの設置について

事務局：センターへの意見を幅広く収集する手段の一つとして設置する。ゆめこらぼに限定した情報ボックスで実効性が上がる方法やまた他に方法があれば意見をいただきたい。
委　員：感覚的に言えば情報ボックスでは、ゆめこらぼの広報的な効果はあるかも知れないが、情報収集に役立たない。
委員長：どんな情報を考えているのか。何でもよいのか。
事務局：特に限定はしない。
事務局：地域のあちらこちらの人から情報がセンターに集まる仕組みを作りたかった。センターの受託に当たって市に行った提案の一つである。回収の仕組みをうまく作らないと情報が古くなる。インターネットの普及で情報媒体が多様化している中で紙媒体をどううまく利用したらよいか意見をいただきたい。
委員長：情報ボックスの位置付けを含めて意見はあるか。
委　員：業務が煩雑になって実効性には疑問がある。若い人はメールを使う。年配の人は意見を民生委員に伝えるのも一つである。
委　員：情報ボックスに入った情報をホームページやメールで発信していくこととなれば、ニーズはあろう。
委　員：情報媒体として放送がある。地元にＦＭ西東京がある。
委員長：事務局で今の意見を参考に検討し、再度提案願いたい。

４．そ　の　他

1.次回運営委員会日程について

事務局：次回は６月１５日（火）午後７時～９時
場所はイングビル３階第３会議室。

2.運営委員のメールアドレスの公開について

委員長：今回の運営委員会のお知らせメールでＢＣＣを使わなかった。このため各委員のメールアドレスが開示された。運営委員相互間のアドレスの扱いを確認したい。

委　員：センター長へ個人的にメールしたい時がある。
委員長：メールアドレスは組織用と個人的にもっているものがある。
事務局：ゆめこらぼのアドレスはBIGLOBEの１個のみ。新しくホームページができたら増える。ただ、市も個人ごとにはもっていないので確認する必要がある。
委　員：社協は個人ごとにアドレスを持っているのでは。
事務局：社協のネットワークの中で使っている。ゆめこらぼでは使えない。
委　員：運営委員のメールアドレスの共有に問題がなければ、公開してもよいのでは。
委員長：運営委員のメールアドレスは運営委員相互では原則として公開としたい。公開を望まないメンバーの方はゆめこらぼにその旨連絡すること。

以上をもって散会した。